

要 旨

児童の自発的、自治的態度を育成するためには、児童の話合い活動において、進んで表現し、折り合いを付けて、よりよい集団決定をする力を高めることが重要であると考え。そこで、事前に、ブレーストーミング的活動やミニ発表会を行わせたり、話合いの収束場面で、折り合いに向かう視点をもって小集団で話し合う「シンキングタイム」を設定したりした。その結果、めあてに沿って、意欲的、協同的に議論しながら、折り合いを付けて、集団としての意思をまとめようとする児童の態度が見られるようになってきた。

キーワード 事前活動の充実 めあてに沿った話合い活動 折り合いを付ける
集団決定力の育成

1 研究の目標

進んで自分の考えを表現し、多様な意見を生かして折り合いを付け、よりよい集団決定をする力を高めるため、話合い活動において、自信をもって参加させるための事前の指導や、段階を踏みながら自分たちで話合いを収束させていく指導の工夫を探る。

2 目標設定の理由

現代は「私事化社会」ともいわれる。子ども社会においても、「友達と遊べない」「自己主張が強すぎる」「みんなで何かをするのを嫌がる」など、好ましい人間関係が築けず、社会性の育成が不十分である状況が見られる。

このような現状のもと、平成20年1月の中央教育審議会答申の中で、特別活動の改善の基本方針について、「社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する」¹⁾と示された。平成20年度の佐賀県教育の基本方針においても、「課題解決に向けて他者と協働しながら、よりよい社会の形成に自ら参画・貢献できる力の育成が求められている」²⁾と明記されている。

そこで、本研究ではグループの研究課題を受け、「よりよく判断する力」を「生活上の諸問題を、自発的、自治的に解決しようとする態度」ととらえ、この態度を育成するためには、「進んで自分の考えを表現し、他者を理解し、多様な意見を生かして折り合いを付け、よりよい集団決定をする力」を高めることが重要だと考える。

話合い活動は、学級活動の内容(1)「学級や学校の生活づくり」において中心となる活動であり、協力してよりよい学級や学校の生活を作るために、児童が集団で実践するための目標や方法、内容などを決めるものである。しかし、事前に議事について、児童が自分の考えを整理していなかったり、話合いの中でめあてに沿った意見交換をしていなかったりした場合は、よりよい集団討議も集団決定もできなくなる。そこで、自信をもって話合いに臨むための事前の活動や多様な意見を生かしながら収束に向かう話合いにおいて、適切に指導を行っていく必要があると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

話合い活動において、自分の考えをもち安心して話合いに参加できる手立てをとることにより事前の活動を充実させたり、話合いの中で段階やめあてを意識させたりする指導を工夫すれば、よりよい集団討議ができ、進んで自分の考えを表現し、多様な意見を生かして折り合いを付け、よりよい集団決定をする力が高まるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 文献やインターネットなどを通して、学級活動の総論及び話し合い活動に関する理論研究を行う。
- (2) 話し合い活動に関するアンケート調査を基にした意識調査を実施し、その結果を分析する。
- (3) 話し合い活動の検証授業を行い、事後の調査を通して仮説の有効性を検証し、考察する。

5 研究の実際

(1) 児童の実態

本校2年生1クラスの児童21名を対象に、話し合い活動に関する事前意識調査を11月に行った。その結果、児童の実態として、図1のように、みんなで話し合いをするのは好きだが、納得のいかない集団決定で終わっている場合が多いことが分かった。「納得いかない」と答えた児童11名は、その理由として、図2に示すようなことを挙げており、自分の考えを十分に伝えることができないまま集団決定されていることがうかがえる。これまでの話し合い活動の様子を振り返ってみると、児童が自分の考えをうまく表現できなかつたり、意見が対立したときに、発言力のある児童の考えに流されて決定してしまったりする場面がよく見られていた。そのため、集団決定の際に納得いかない表情を見せたり、その後の実践活動においても意欲的に取り組めなかつたりする児童も見られた。

(2) 文献等による理論研究

木原は、「集団決定とは、集団構成員の意思を一つにまとめることである。したがって……話し合い活動の過程では、構成員の意見（意思）を集団の場に出し、それらを練り合わせ、より合わせて、……最もよいと集団構成員が思うものを、一つだけ選択することである。」³⁾と述べている。ここで使われている「練り合う」「より合う」とは、「さらによりよいものにするために集団で内容を検討し合い、他者の考えに耳を傾けながら折り合いを付けようとする」ととらえられる。

また、児島は、集団決定に至るまでの話し合いの留意点として、「反応するために『聞く』『話し合いのめあて』に沿った意見を言う」「話し合っ『折り合いを付ける』」⁴⁾の3点を述べている。つまり、集団決定では、児童が、相手の意見をよく聞いて自分の考えを表現し、話し合いのめあてに沿って検討し合い、折り合いを付けて集団の意思をまとめることが重要だといえる。

「折り合いを付ける」ことについて、岩佐は、「『折り合いをつける』とは……学級での話し合いの活動の場面において考えると、『意見が対立したときに、自分の意見ばかりを主張するのではなく、友だちの意見にも耳を傾け、よりよい解決法や解決策を見つけ出していく』ということ……つまり、『折り合いをつける』とは、『自分も友だちも納得できる』話し合いということなのです。」⁵⁾と述べている。

これらの理論から、集団決定力を育成するためには、「自分の考えを表現する力」と「集団で内容を検討し合う力」と「折り合いを付けて一つにまとめる力」（以下、「表現する力」「検討し合う力」「折り合う力」と表記）を高めることが必要であると考えられる。

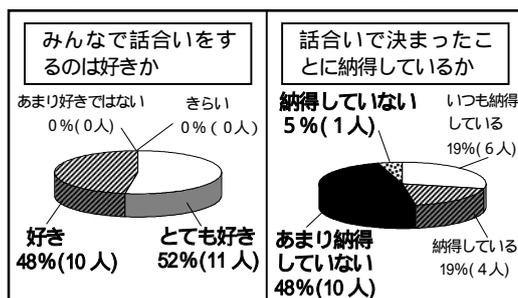


図1 話し合い活動に関する事前意識調査

自分がよいと思っていない考えに決まってしまう	2人
自分の考えを言う前に決まってしまう	2人
ほかによりよい考えが思い付かない	2人
自分の話をちゃんと聞いてくれない	2人
自分の考えをうまく話せない	1人
違う考えを言うと責められる	1人
十分に話し合いをしないで、多数決で決まってしまう	1人

↓

自分の考えを十分に伝えることができないまま、集団決定がなされている。
対象：「納得いかない」と答えた児童 11人

図2 決定に納得いかないときの理由

(3) 研究の全体構想

集団決定力の3要素とする、「表現する力」「検討し合う力」「折り合う力」を高める手立てを考え、研究の全体構想として、図3に示した。

ア 表現する力を高める手立て(視点)

話し合いの中で、自分の考えを進んで表現させるためには、自信をもって話し合いに参加させることが大切である。そこで、事前に、ブレインストーミング的活動やリサーチ活動を通して、自分の考えをもたせたり、ミニ発表会を実施し、発表に対する自信をもたせたりすることで、話し合いへの意欲や話し合い時の発言力を高めようと考えた。

イ 検討し合う力を高める手立て(視点)

よりよく検討し合うためには、段階を踏みながら、話し合いのめあて(話し合う理由)に沿った意見を発言することが重要である。そこで、話し合いの過程と、発表する意見の種類や話型を、視覚的に提示していくことで、段階を踏んだ話し合いができるようにする。また、「話し合いのめあてを意識する」「自分にとってもみんなにとってもよい考えを作る」等の、目指すべき話し合いの在り方をうたった詩を、全員で音読させることで、めあてをより意識した話し合いができるようにしたいと考えた。

ウ 折り合いを付ける力を高める手立て(視点)

自分も友達も納得できる話し合いをさせるためには、折り合いを付けさせ、最終的な自分の意思決定及び集団の意思決定をさせなければならない。そこで、話し合いを収束させる場面で、折り合いに向かう視点をもって小集団で話し合う「シンキングタイム」を設定する。ここで、児童は、

互いの考えを相互に伝え合いながら、折り合いを付けようと努力する時間を経ることで、折り合いへの意識が高まり、みんなが納得のいく集団決定ができるようになると考えた。

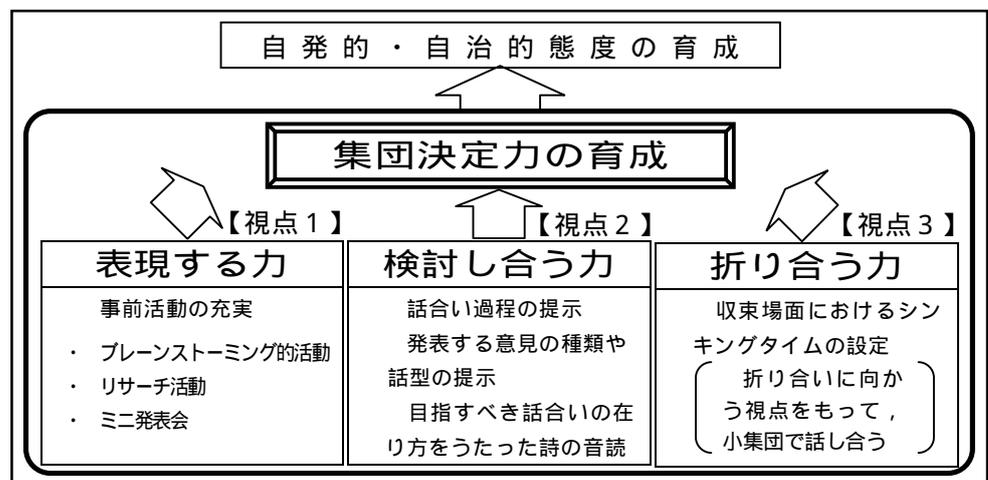


図3 全体構想図

(4) 授業の実際と考察

仮説を検証するため、本校2年生1クラス(男子9名、女子12名)において、学級活動「みんなで作るなかよしクラス集会をしよう」と「1年生ともっとなかよくなるよう集会をしよう」の授業実践を行った。なお、本学級では、学級会議を、「2っこ2っこ会議」とよんでいる。

ア 視点 (事前活動の充実による話し合いへの意欲や発言力の高まり)

(ア) 自分の考えをもたせる情報収集活動

議事について、自分の考えをもって話し合いに参加させるため、朝の時間に、ブレインストーミング的活動を行わせた。活動名は、「ヒラメキ活動」とし、「一人ヒラメキ(3分間)」から「グループヒラメキ(3分間)」という流れで実施した。その後、ヒラメキ活動で出てきた多くのアイディアの中から、自分がよいと思うものを幾つか選ばせ、自分の考えとして話し合いカードに書かせた。活動後の振り返りには、次頁図4に示すように、多くのアイディアに出会

えた喜びが書かれており，21人中20人の児童が，「ヒラメキ活動でよい考えがもてた」と答えていた。

また，ヒラメキ活動後には，休み時間や家庭学習の時間を利用し，「リサーチ活動」と称した情報収集活動を行わせた。「おうちの人にたずねてみよう」「上級生にたずねてみよう」「ほかの先生にたずねてみよう」「図書室の本で調べてみよう」の4つの視点を与えて取り組ませたところ，多くの児童が，父母や兄弟から情報を得て，新たな考えを話し合いカードに書き加えていた。ヒラメキ活動であまりよい考えがもてなかった1名の児童も，リサーチ活動後には，「お母さんからよい考えを教えてもらった」と喜んでいていた。

(イ) 自信をもたせるミニ発表会

全員に自分の考えを話し合いカードに書かせ，帰りの時間を使って，「ちょっとちょっとタイム」と題したグループでのミニ発表会を実施した。2っこ2っこ会議で発表しようと思っている自分の考えを，「わけ」も合わせて，グループの友達に発表させた。聞き手の児童には，以前に学習した，上手な聞き方の3つのスキル「体を向ける」「話す人を見る」「あいづちを打つ」を実践しながら聞かせるようにした。また，このとき，聞き手の児童は，「ほめほめ言葉（発表の仕方や発表内容に対する称賛や承認の言葉）」やアドバイスを返し，話し手の児童が「2っこ2っこ会議で発表したい」と思えるような働き掛けをさせるようにする。図5から分かるように，

話し手の児童は，「話すときにはちゃんと聞いてくれる」という安心感をもち，ほめほめ言葉やアドバイスが起因となって，「話し合いで発表したい」という気持ちを高めていったことがうかがえる。また，グループでの発表が，本番前の事前練習となり，発表に対する自信を付けることにつながったと考える。また，相手に配慮した反対意見や質問の言い方等についても，この時間に指導しておく，話し合い時によりよい発言ができるよう手立てを講じた。

(ウ) 視点 のまとめ

このような充実した事前活動を行わせた結果，図6に示すように，すべての児童が，2っこ2っこ会議で自分の考えを発表しようと思うようになり，話し合いへの意欲は高まったといえる。児童からは，「2っこ2っこ会議を早くやりたい。」「2っこ2っこ会議が待ち遠しい。」という言葉がよく聞かれ，児童は話し合いを心から楽しみにしているようであった。話し合い当日においても，以前までは，ある程度決まった児童が発表していたが，今回は，全員が自分の考えを進んで発表し，活発な意見交換ができていた。話し合い後の振り返りを見ても，フロア（議長団以外）の児童16人全員が，「自分の考えを進んで言うことができた」（とても言えた14人，言えた2人）と答えており，事前活動の充実により，話し合いへの意欲や発言力が高まったと考えられる。

- ・ 一人ヒラメキで，アイデアがたくさんひらめいたからよかった。
- ・ 一人で，アイデアをたくさん思い付いたけど，グループでは，もっとたくさんあったので，びっくりした。
- ・ 一人ヒラメキでは，アイデアが少なかったけど，グループヒラメキでたくさんになったからうれしかった。
- ・ グループで助け合いができるからいいなあと思った。
- ・ 2っこ2っこ会議で，いっぱい発表したくなった。

図4 ヒラメキ活動後の児童の感想

- ・ 上手な聞き方の3つのきまりを守って聞いてくれたから，うれしかった。
- ・ さんがアドバイスしてくれたので，よく考えられた。
- ・ いっぱいほめられて，本番はぜひ発表したいと思った。
- ・ ちゃんがいい言葉を言ってくれたので，「ぜひこの発表を成功させるぞ！」と思う。
- ・ ほめてもらって，とってもとってもうれしかった。発表する勇気ももらった。

図5 ちょっとちょっとタイム後の児童の感想

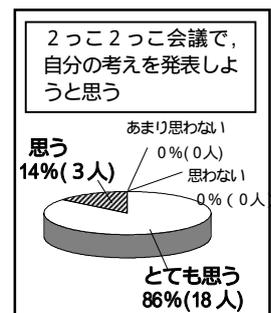


図6 話し合いへの意欲

イ 視点（視覚的な提示による段階の明確化や音読によるめあての意識化）

(ア) 話し合い過程と発表する意見の種類や話型の提示（図7）

1単位時間の話し合いの過程を、「はじめ」「出し合い」「シンキングタイム¹」「シンキングタイム²」「まとめ合い」「ふりかえり」の6段階に分けて提示しておき、議長団が話し合いの進行に合わせて、「今はココ！」の目印を移動させていくようにした。また、フロアの児童が、今何を発表すればよいのかが分かるように、「賛成意見」「反対意見」「付け加え」「まとめる意見」「質問」などの発表できる意見の種類や話型を、その都度、議長団に提示させるようにした。これらの提示されたボードを見ながら、児童は、「今は何をやる時間なのか、今は何を発表すればよいのか、どんな言い方をすればよいのか」を考え、段階を踏みながら自分たちで話し合いを進めていこうと努めていた。議事進行から外れた意見が出た時には、他の児童が、図7のボードを見ながら、「今は、その意見を言う時間じゃないよ。」とアドバイスを送っていた。

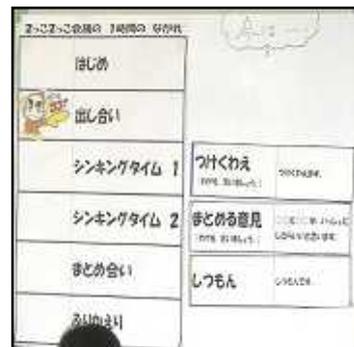


図7 視覚的な提示

(1) 目指すべき話し合いの在り方をうたった詩の音読

シンキングタイム¹とシンキングタイム²の冒頭に、「話し合いのめあてを意識する」「自分にとってもみんなにとってもよい考えを作る」等の、目指すべき話し合いの在り方をうたった、教師自作の詩（図8）を、全員で声をそろえて言わせるようにした。児童の発表の大半は、話し合いのめあて（図9）に沿ったものであり、振り返りにも、「シンキングタイムの詩が、発表の基になった。」「音読していたら、『そうか!』と思って、一生懸命にめあてを考えて決めようとした。』といった感想が書かれていた。

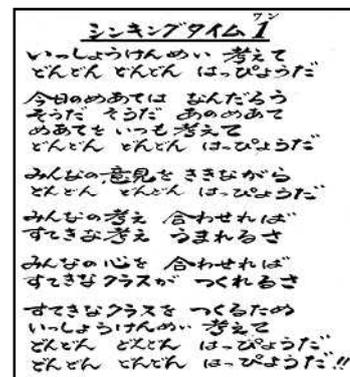


図8 教師自作の詩

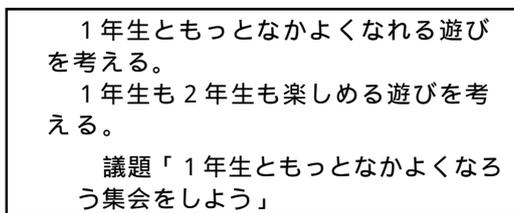


図9 話し合いのめあて

(ウ) 視点 のまとめ

話し合い後の振り返り（図10）では、21人の児童全員が、「自分たちで話し合いを進めることができた」と答えていた。また、「めあてを考えながら話し合えたか」という設問に対しても、フロアの児童全員が、「とてもできた」と答えていた。話し合い過程の提示や、発表する意見と話型の提示及び詩の音読が、段階を踏みながら、めあてに沿った話し合いをさせるための手立てとして、有効であることが分かった。

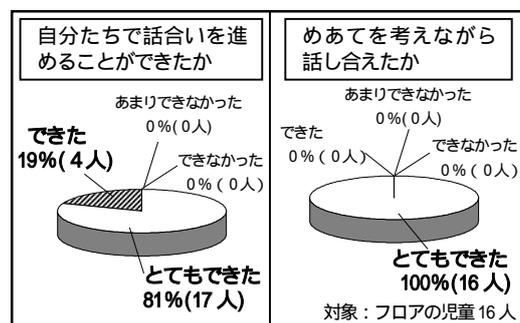


図10 めあてに沿った話し合い

ウ 視点（収束場面でのシンキングタイムによる折り合いを付ける力の高まり）

(ア) シンキングタイム¹

児童が事前にもっていた自分の考えを出し尽くした時点で、自分の意見と他の意見を比べながら、よりめあてに合った意見はどれなのかを、沈黙考する時間（シンキングタイム¹）を設定した。「やっている様子を想像してみる」「それぞれの意見のよいところを見つけて比べてみる」「めあてに一番合っている意見を見付ける」といった視点を与え、1分間程度、一人で黙って深く考えさせることで、自分の意思を明確にさせた。この時間を経ることで、全員が、視点を基に、賛成意見や反対意見を積極的に発表しながら、意見を絞り込んでいくことができた。

(1) シンキングタイム²

意見がいくつかに絞り込まれたり、話し合いが行き詰まったりした時点で、シンキングタイム²を行った。4人1グループで、絞り込まれてきた幾つかの意見について話し合う時間である。「自分にとってもみんなにとってもよい考えを作る」を大前提とし、図11に示した「折り合いに向かう3視点」をもって話し合わせた。児童はグループ内で自分の考えを主張し、他者の意見にも耳を傾け、折り合いを付けてグループとしての意思をまとめようと努力し、最終的な自分の意思決定及び集団の意思決定へと向かうことができた。図12に、折り合いに向かう3視点を基に話し合い、集団決定するまでの様子を示す。

折り合いに向かう3視点

どれかの考えにする
考えを組み合わせると一つの考えにする
別の時間にできる考えを外す

図11 折り合いに向かう3視点

《話し合いのめあて》
1年生ともっとなかなよくなる遊びを考える。 1年生も2年生も楽しめる遊びを考える。

「花いちもんめ」「ドッジボール」「大縄」「リレー」の4つに絞り込まれた時点で、グループごとに、シンキングタイム²を実施

シンキングタイム² (2班と3班を抽出)
【下線部は、「折り合いに向かう視点」を意識した発言】

2班	3班
<p>A 「花いちもんめ」も「ドッジボール」も「大縄」も「リレー」も、<u>4つとも、休み時間にすぐできるから、全部外せないなあ。</u>【折り合いに向かう視点】 児童は視点を基に休み時間にできるものを外そうとしたが、4つとも同じ条件だったため、どれも外さずに他の視点を基に考えることにした。</p> <p>B 花いちもんめは、この前、1年生と6年生がいっしょにやってたよ。</p> <p>A ドッジボールは、1年生が、休み時間によくやってるよ。</p> <p>B あんまり、<u>1年生がやったことない遊びがいいんじゃない?</u> 【折り合いに向かう視点】</p> <p>A・C・D 賛成!</p> <p>A 大なわは、この前の縄跳び週間のときに、いっばいやったよね。</p> <p>B じゃあ、リレーがいいんじゃない?</p> <p>D 賛成!</p> <p>C 1年生対2年生でやるの?</p> <p>B 1年生と2年生を半分ずつに分けて、チームを作ればいいと思う。</p> <p style="text-align: center;">《リレーに賛成》</p>	<p>E ドッジボールは、いつもやっているから、飽きたよね。</p> <p>F 1年生も、いつもやってるしね。</p> <p>E 花いちもんめをやるには人数が多すぎると思う。</p> <p>G やっぱり、大縄か、リレーでしょ。</p> <p>F <u>大縄とリレーを合体させて、「大縄リレー」がいいんじゃない?</u> 【折り合いに向かう視点】</p> <p>E それって、どうやるの?</p> <p>F (テレビ番組の)「天才てれびくん」でやってたの、見たことない?</p> <p>H 知ってる! (FとHが、EとGに、やり方を説明)</p> <p>G それいいね!</p> <p>E 難しすぎないかな?</p> <p>F じゃあ、今日の昼休みにみんなでやってみようよ。</p> <p>E・G・H 賛成! 《大縄リレーを提案》</p>

「リレー」と「大縄リレー」の2つに絞り込まれた。その後、一つに決めるために、まとめ合いを実施。

まとめ合い

各グループで話し合った結果、2班と4班は「リレー」に賛成、1班と3班は「大縄リレー」を提案することとなった。「リレー」と「大縄リレー」のどちらかについて、賛成意見を中心に意見交換をし、「大縄リレーに賛成」が15人、「リレーに賛成」が1人となった。このあと、全体の話し合いを経て、「大縄リレー」に決定。

「大縄リレー」に集団決定

図12 シンキングタイム²の実際

- ・ みんな、グループの人のことを思って、意見を出していることがわかった。
- ・ みんながよいことを言ってたから、自分もよいことを言おうとがんばった。
- ・ 協力してするところだから、安心して話し合えた。
- ・ はじめはあまり決まらなかったけど、みんなで力を合わせたら決まった。
- ・ グループの中で、意見が違うのが出てたけど、話し合ってみたら1つの意見ができてよかった。
- ・ みんながいろいろな意見を出したけど、みんなで、「こういうところがダメじゃない?」とかいろいろ言って最後、みんな納得できたからうれしかった。
- ・ くんが、リレーから大縄リレーに変えてくれたので、すごくうれしかった。

図13 シンキングタイム2についての児童の感想

図13からも分かるように、児童は、シンキングタイム2をすることで、折り合いを付けようと努力することのよさや折り合いを付けることができた喜びを感じていたようである。シンキングタイム2によって、児童の折り合いへの意識が高まっていたと考えられる。

(り) 視点 のまとめ

児童は、シンキングタイム2において、グループ内で折り合いを付けて、4つの意見を2つにまで絞り込んだ。その後、個人に分かれて意見交換をさせ、集団としての意思を一つにまとめさせる過程で、自分の考えを変えた児童がいた。図14に示すように、この時の児童の発表からは、折り合いを付けようとする意識が強く感じられていた。シンキングタイム2を経ることで、児童の折り合いへの意識が高まっていたからであると考えられる。「リレー」にこだわっていた一人の児童も、最終的に、「一度やってみて、『大縄リレー』が難しすぎる場合には、簡単なやり方に変える」という条件で、「大縄リレー」に同意した。

- ・ やっぱりこっちの遊び(大縄リレー)の方が、楽しくてめあてに合ってると思ったから……。
- ・ どっちもめあてに合ってるけど、大縄リレーは1年生も2年生もやったことないから、いっしょにやると楽しいと思ったから……。
- ・ やったことがないことをしたら、どんどん上手になって、うれしくなると思うから……。
- ・ さんの、説得がとても上手だったから……。
- ・ 大縄リレーの意見を聞くと、大縄リレーも工夫すれば、簡単になるかもしれないから……。

図14 最後に考えを変えたときの児童の発表

話し合い後の振り返りでは、図15に示すように、児童全員が、「決まったことに納得している」と答え、折り合いを付ける話し合いができたこととらえられる。また、「みんなが納得できる考えを出そうとしたか」という問いに対しても、フロアの児童16人全員が「できた」と答え、21人全員が「決まったことをがんばってやろうと思う」と答えている。これらの結果から、話し合いの収束場面で、折り合いに向かう視点をもって小集団で話し合う時間を設定することは、折り合いを付けて、集団の意思をまとめるのに有効であると分かった。

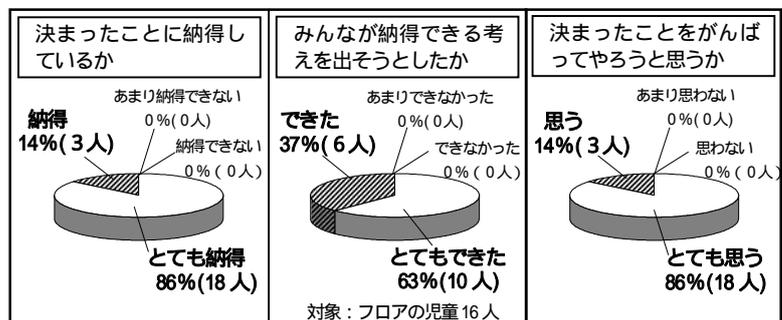


図15 話し合い後の意識

エ 全体を通して

今回の検証授業では、集団決定力の3要素と考えた、「表現する力」「検討し合う力」「折り合う力」のすべてにおいて高まりが見られたことにより、「よい集団決

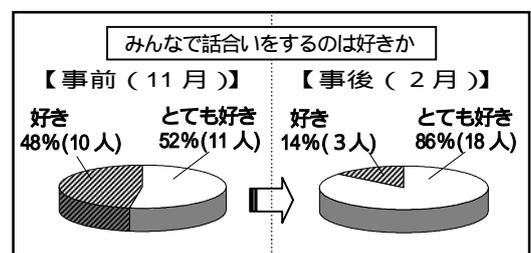


図16 事前と事後の意識の変容

定ができた」ととらえている。2月に、事後の意識調査を行ったが、前頁図16に示すように、児童は、今回の取組を通して、話し合いが更に好きになったようである。そして、図17からも分かるように、児童は、「納得できる話し合い」ができるようになってきた。今後、このような話し合いを繰り返し行っていくことで、集団決定力が更に高まり、児童の自発的・自治的態度が育成されていくであろう。

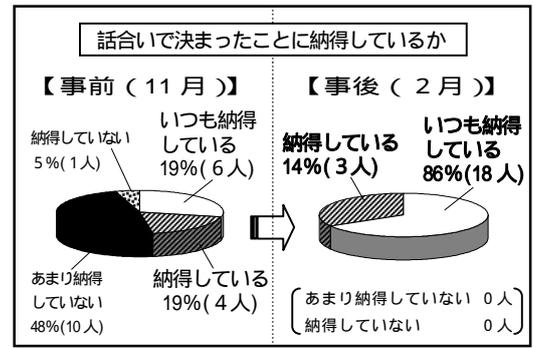


図 17 事前と事後の意識の変容

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 自信をもって話し合いに参加させるために、事前に行う、ブレインストーミング的活動やリサーチ活動、ミニ発表会は、児童の話し合いへの意欲や発言力を高める手立てとして有効であった。

イ 話し合いの過程や発表する意見の種類と話型を視覚的に示したり、目指すべき話し合いの在り方をうたった詩を全員で声をそろえて言わせたりすることは、段階を踏みながら、めあてに沿った話し合いをさせるのに有効な手立てであった。

ウ 話し合いを収束させる場面で、折り合いに向かう視点をもって小集団で話し合う「シンキングタイム」を設定し、最終的な自分の意思決定及び集団の意思決定をさせることは、折り合いを付けて集団の意思をまとめるのに有効な手立てであった。

(2) 今後の課題

今回、2回目の検証授業では、シンキングタイムが終わった時点で、グループ間で折り合いを付けることができずに話し合いが行き詰まってしまった。グループ間でも意見を交流させる等の工夫が必要だと思う。また、よりよい「折り合いに向かう3視点」の探求も必要であろう。さらに、6年間を見通した系統性のある話し合い活動指導の工夫や、話し合い活動で培った力を、他の学習や活動、実生活に生かすための手立ての工夫も必要だと思われる。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 平成20年 東洋館出版 p. 3
- 2) 佐賀県教育委員会 『佐賀県教育の基本方針』 平成20年4月 p. 4
- 3) 木原 孝博 『学級活動の理論』 1996年 教育開発研究所 p.237
- 4) 児島 邦宏・宮川 八岐編著 『小学校学習指導要領の解説と展開 特別活動編』 2008年 教育出版 pp.114-115
- 5) 岩佐 隆之 「折り合いのつけ方でどう指導するか」 『特別活動研究』 2007年 2月号 明治図書 p.17

《参考文献》

- ・ 宮川 八岐編 『個性を生かす教育と集団指導』 2003年 教育出版
- ・ 杉山 正一編著 『話し合い活動の原則』 1968年 啓文堂
- ・ サトウ ヒロシ 『速攻プレスト』 2007年 トランスワールドジャパン株式会社